

# 平成29年度 事業報告

介護老人保健施設  
恵の杜

## 1) 事業所運営の理念・基本方針

理念：安心と信頼 笑顔とチームワーク

基本方針：①介護の充実

②すごしやすい環境の提供

③職員教育の充実

④連携

<考察>

ご利用者様の残存機能を維持していこうとケアするあまり、口調が強くなり誤解を招くケースや、職員個々で個々のケアを実施するためご利用者様が混乱をきたすケース等が確認されていた。その結果を踏まえ、チームワーク、安心と信頼には至っていないと考える。本年度は新しい組織図のもと、縦のつながり、横のつながりを強化し、個別ケアの充実と末端まで伝達が通る連携方法を築きあげていきたいと考える。

## 2) 管理者の事業に対する考え方

各部署が向上意識をもち、利用者一人一人に合わせた個別性のある援助を行いながら、在宅復帰も視野に入れ考える。

<考察>

各部署がそれぞれの目的を理解しきれていないと感じた。何をするにも指示待ちで、自分たちで解決する事を考えて行動していないと、日々の行動・業務を見て感じた。平成30年度は、個別・各部署目標を作成し意識を高め、目標を持てるような環境をつくる。

## 3) 入居者（利用者）の受入（利用）促進計画

90%以上の稼働率と3床のショートステイの運用

<考察>

毎月の稼働目標を掲示し、職員の意識改革に取り組んでいった。しかし、実際目標数値に近づくことは厳しい状況であった。

年間平均75.28床。稼働率94.1%の結果であった。

初動が遅い事と、医療機関からの本入所希望だと退院日設定があり、それに合わせて当施設のベッドが空床であっても入院者が戻るベッドがなくなってしまうという現状を今後どのように運営していくかが課題となる。

#### 4) 入居者（利用者）のニーズ・要望への対応内容

快適な生活を提供するために、職員の気配り・学習(研修)を踏まえた上で対応する

##### <考察>

食事・栄養・排泄に関しては個別性をいかすケアを実施できてはいますが、利用者・家族のニーズを把握しそれに沿ったケアはまだ不足していると考えます。利用者からの声であったり、面会時の家族のお話であったりを総合的に判断すると、コミュニケーションがうまくいっていなかったり、ケアが押し付けであったりが見えてきます。

今後、業務改善をしながら、時間的余裕を作り、利用者の声、家族の思いを把握する努力が必要と考える。

#### 5) 入居者（利用者）の苦情受付体制及び対応に関する考え方

苦情の軽・重に関わらず、誠意を持った迅速な対応を行う

##### <考察>

苦情内容を隠そうとしているのか、どこにどのように申し入れしたらよいかわからないのか、うまく機能していないと感じる。マニュアルを確認し、報告の指示系統を全職員に周知徹底していく必要がある。

#### 6) ターミナルケア（看取り介護）に対する考え方

看取りをする上で、「利用者(人間)の終身とは何か」を思慮することができる

##### <考察>

介護報酬改定により、今後介護老人保健施設で「看取り」をすることがプラスに働くのかどうかを見極める必要が出てくる。その為、4月以降で「看取り」を実施するべきかどうか判断していく。

実際、何も望まない(胃瘻も CV も)家族や人間本来の自然な形を望む家族が増えてきている事は事実である為、介護老人保健施設でどこまで寄り添えるのかを考えていく必要がある。

#### 7) 事故防止（再発防止）への取り組み

事故報告書のデータを分析し、今後の対策に反映する

##### <考察>

毎年実行しているが同じような事故が発生している。その対策をしっかりと見極め分析

する必要があると考える。事故防止委員会とも連携を図りデータの集計分析に力を入れていく。その内容をフィードバックするだけでなく、どうしたら職員全員が意識を持ち情報を共有できるのかを今後の課題とし取り組んでいく。

## 8) 職員の確保、配置及び育成に対する計画

適正な職員配置と効率の良い業務の流れをつくる

<考察>

夜勤(看護含み4人)態勢の業務改善も軌道に乗り始めている。看介護で利用者のケアを実施する体制は形つくられてきている。今後は24時間を通して看介護で協力し利用者のケアを実施していける体制と意識付を今後の課題とする。

## 9) 施設・設備の保守・管理に関する考え方

利用者が健康で快適な生活ができる空間をつくる

<考察>

環境整備に関しては、注意喚起を定期的実施している。しかし、環境整備とは何かを理解してもらえないと整理整頓はできても、テレビ周りの誇りや、引き出しの汚れは取れず声掛けを続けている状況である。気づき環境整備できる様業務改善が必要とかがえる。

室温・湿度調整に関しては、利用者中心での対応を声掛けしていますが実際は低め設定で利用者からの「寒い」という声が聞こえる為、引き続き温度調整の声掛けは行う必要がある。湿度調整に関しては感染委員会が中心となりインフルエンザ予防を実施している。その結果、平成29年度はインフルエンザの発症はゼロであった。継続していく。

## 10) 個人情報保護への取り組み

厳重な管理と全職員の意識を高める

<考察>

書類の持ち出しや、パソコンのパスワード設定等は徹底されている。引き続き継続していく。

情報開示に関しては、退所した方の家族間での裁判のため情報開示がありました。必要書類の提出や、弁護士サイドとのやり取りも必要以上の情報は出さないよう慎重に対応させていただいたケースがあった。今後も同様のケースが発生した場合は十分に注意し対応していくよう指導を継続する。

### 1 1) 関係団体・地域団体との連携

各関係機関との連携の中で、積極的に外部会合参加の際にはパンフレット等を持参しアプローチする

#### <考察>

入所紹介依頼のために、近隣の病院あいさつ回りにパンフレット持参活動は継続する。新規申し込みで状況確認行く際も挨拶しパンフレット持参することを継続する。区役所との連携・居宅との連携も引き続き継続とする。

### 1 2) 社会資源としての役割について

地域ケアマネージャーとの情報を密にし、窓口の広い施設をアピールする。

#### <考察>

地域ケアマネージャーからの電話相談は丁寧に行い、対象者であれば早急に対応している。この関係から入所につながるケースも多々あるので、連携は密にし、関係性を保ち継続していく。

### 1 3) 各種委員会・研修の実施に関する考え方

研修会に参加し、職場に反映する

#### <考察>

本年は外部研修への参加が昨年よりも多くなっている。その後の反映の仕方を工夫していく事が課題となっている。伝達講習会を不定期でも開催する事を実施していく。

### 1 4) 実習生・ボランティア受入、育成

積極的に実習生を受け入れしていく。採用にもつなげる。

#### <考察>

実習生の受け入れは本年度から実施しているが、目的である採用には行き届く受け入れではない。しかし、実習生が来ることにより職員の士気が上がり、指導するスタイルが生まれる。当施設には必要な環境であると考え。今後も、目的は違うが実習生の受け入れを積極的に受け入れ、職員の意識改革に繋がるのではないかと考え、引き続き継続していく。

## 15) 防災・防犯対策避難

常に災害を想定した準備と対応ができるために危機管理を持つ。

### <考察>

計画とは逆になったが、日中と夜間を想定した避難訓練の実施と、日中の訓練は建屋に入っている三事業所合同訓練を初の試みとし実施した。それぞれの役割と、どう対応するか課題も見えた。それを評価し、今後に役立つ充実した訓練を実施する。合同訓練も引き続き実施できる様三事業所間で連携を図っていく。

特別避難場所としての役割も今後の課題である為、情報共有し、着実に受け入れ態勢をとれる仕組みづくりを行う。